



# にぎわい

通巻75号

(平成16年9月号)

～日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信～

## 福井県大飯町

### “スーパー大火勢”の炎が天を舞う

大飯町は福井県の西端に位置し、南側は三方が山に囲まれ、北側は波静かな青戸の入江を隔てて大島半島が日本海に突き出しています。

中山間部に位置する福谷区等には、およそ300年前から火災鎮護と五穀豊穡を祈願する伝統行事「大火勢」が受け継がれています。この大火勢が平成7年の町制施行40周年となる節目の年に、町民有志により現代風にアレンジした“スーパー大火勢”として、毎年8月上旬の土曜日に大飯町成和の総合運動公園と青戸の入江の海上特設会場で催されることになりました。

我が町は昔から炎に深く関係しており、この大火勢を始めとして大和朝廷に献上する塩の生産地で海水を蒸発させる炎が燃えていたことや、昭和54年に大飯発電所の原子の火が灯されたことなどから、炎をテーマにした「町の活性化と新しい観光の目玉になる祭りを」「町民総参加の手作りイベントを」と考え出されました。

今年で10回を数えた“スーパー大火勢”は8月7日に開催され、昼間は子ども向けのイベントとして、映画大会や大道芸パフォーマンス等が行われたほか、会場通路には町民バザーや露天商が立ち並び子ども連れで賑わいました。夜はメインイベントとして、木の葉型の大松明“スーパー大火勢”と花火、音楽による競演が繰り広げられました。

夕暮れの7時、近隣は元より県外からも訪れた人達およそ5万4,000人が見守る中、平成7年から総合運動公園の一角にある丸山公園のモニュメントで燃え続けている「悠久の炎」を種火として、一般参加の500人による松明行列が行われ、海上に設けられた特設会場に炎の活気が移されました。

続いて、「ドン・ドン・ドン」「トン・トン・トン」と大太鼓、小太鼓の演奏が繰り広げられ、午後8時に勇壮果敢な若衆80人が威勢良く陸地から仮棧橋を渡り大火勢台船に集合、「やっさ」「やっさ」の掛け声により、高さ20mの芯棒に7段の横棒とその先端に結ばれた15の松明、総重量1トン以上のスーパー大火勢が夜空に向けて立て起こされ、



芯棒を軸にぐるぐる廻されました。

火の粉を舞い散らし、豪快に燃える15の松明は、若衆の動きによって15点の炎や7つの火の輪になり観客を魅了、最後に横倒されました。その後、3,000発以上の花火と音楽のページェントで“スーパー大火勢”を締めくくりました。

平成16年夏の夜空を赤々と色付かせた“スーパー大火勢”は、若衆の情熱とパワーによって既に来年へとスタートしており、皆さんの御来場をお待ちしています。



## 新潟県新潟市

### 帆船「日本丸」4年ぶりに新潟港に寄港

8月6日(金)～10日(火)に独立行政法人航海訓練所所属の練習帆船「日本丸」が新潟西港山の下埠頭に寄港しました。

初日は、来賓、消防音楽隊、園児、来場者達による“入港歓迎式典”が行われました。猛暑にもかかわらず、集まった園児は300人。どの園児も元気良く旗を振って乗組員の方をお迎えしました。

2日目には、“セイルドリル”が行われました。全ての帆を張った日本丸の勇壮な姿は、青空に鮮やかに映え、時間が経つのも忘れて、あちこちでシャッターを切る観客の様子が見られました。

3日目は、“船内一般公開”が行われました。見学した方は乗組員の説明に熱心に聞き入り、船に親しむ良い機会となったようです。

他にも、北陸地方整備局の協力で行われた、水上バスでの港内クルージングも好評でした。

また、停泊中は、夜9時まで日本丸のライトアップも行われました。暗闇に白く浮かぶ日本丸は幻想的な夜の港の雰囲気醸し出し、多くの方に楽しんで頂きました。

出航の日は、実習生たちがマストに登り、「ごきげんよう。」とお別れの挨拶をする“登しょう礼”が行われました。日本丸に魅了された多くの方が集まり、日本丸を見送りました。

連日好天に恵まれ、新潟の夏の一大イベント“新潟まつり”の開催時期と重なったことから延べ47,600人の方が来場し、新潟西港は普段にない賑わいとなりました。

日が続くに連れ、来場者数がどんどん増えていくように感じさせる程、ヒートアップした5日間。日本丸をご覧になった方の興奮は傍にいても伝わってきました。日本丸の大きな魅力に触れたことがこの夏一番の思い出という方も多いことでしょう。



## 萬代橋が75回目の誕生日

新潟市のシンボルである3代目萬代橋<sup>ばんだいばし</sup>は、昭和4年8月23日に開通してから、今年で75年目を迎え、7月6日には国の重要文化財に指定されました。

萬代橋の75周年記念事業の一環として、国土交通省新潟国道事務所により、街路灯および橋詰広場の改修、橋側灯の設置が行われ、萬代橋は架橋当時の姿に復元されました。

8月21日(土)には、萬代橋の75周年を祝う“誕生祭”と萬代橋の重要文化財指定を祝う“記念式典”が行われました。

セレモニーでは、重要文化財指定を記念して設置された記念碑の除幕式や、75年前の開通式の雰囲気再現した記念パレードに加え、橋側灯の点灯式が行われました。橋側灯の温かな光が橋と川面を彩り、お祝いの花火が上がると、見守っていた人々から感嘆の声が漏れていました。

また、セレモニーに先立ち行われた誕生際では、オープンカフェやジャズ演奏、キャラクターショーなどが行われ、多くの家族連れで賑わいました。

萬代橋の誕生祭は、市民の発案により実現しました。また、萬代橋を生かしたまちづくりを考えるワークショップが行われたり、市民募金によるライトアップが行われるなど、萬代橋に対する市民グループ活動も活発です。歴史とともに、新潟市民の暮らしに密着してきた萬代橋。それだけに新潟市民は萬代橋に格別の愛着があります。



## 新潟の夏を彩る“新潟まつり”

新潟の夏の一大イベント“新潟まつり”が8月7日(土)～9日(月)に開催されました。

まつりは“市民みこし”で幕を開けました。約4,500人に及ぶ参加者が、みこしを肩に担ぎ、ねじり鉢巻、いなせな法被、「そいや、そいや」の掛け声とともに、<sup>ふるまち</sup>古町通りから<sup>はくさん</sup>白山神社に向け練り歩きました。

また今年のまつり行列では、約40年ぶりに手古舞が復活し、はかま姿にまげを結び、男装した女性8人が、金棒を片手に行列を先導しました。

8日は、寄せては返す踊りの波“大民謡流し”で新潟の夜が熱くなりました。

樽砧の響きに誘われ、色とりどりの浴衣に身を包んだ13,000人も踊り手が、新潟の目抜き通りを整然と踊り、盛り上がりました。

9日の最終日の花火大会では約1万2,000発の花火が打ち上げられました。花火は信濃川の川面を七色に染め上げ、まつりのクライマックスを飾りました。

そもそも新潟まつりは、数百年前から行われていたと伝えられる「住吉祭り」、明治時代に端を発した「川開き」の煙火、大正末期から昭和初期にかけて開始された「開港記念祭」と「商工祭」の四大祭りが、昭和30年に一本化されたものです。今年は市町村合併前における最後の新潟まつりとなりました。来年は、どんな祭りで新潟の夏が彩られるのでしょうか。



## 北陸地方整備局港湾計画課

### 酒田市でフォーラムを開催

日本海沿岸地域の交流と連携を考える「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク10周年記念フォーラム in Sakata」が8月19日、山形県酒田市にある東北公益文科大学において開催されました。水戸部浩子氏(酒田港女みなと会議座長)がコーディネーターを務め、「港のにぎわい・交流・まちづくり」をテーマに、代表の篠田新潟市長や開催地で副代表の阿部酒田市長など5名のパネリストが意見交換を行いました。フォーラムには会員および一般参加者を合わせ約250人が参加しました。



パネリストからは、港を活かしたまちづくりについて具体的な事例をあげての説明や提言がありました。大井紀子氏(日本テレビ放送網(株)コンプライアンス推進室考査部参与)からは「街から歩いて行ける港づくり」、田中三郎氏(郵船クルーズ(株)運航部長)からは「夏の日本海は太平洋と比べると波が非常に穏やかで日本海の各地にクルーズできる」、野竹東北地方整備局副局長は「一つの港だけでは採算が取れなくとも複数の港が連携することで採算が取れる事業も出てくる」などの意見が出ました。

当日の内容については、下記アドレスにある日本海にぎわい・交流海道ネットワークのホームページで公開しています。

ホームページアドレス <http://www.nihonkai-nigiwai.com/>



編集・問い合わせ先 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局  
北陸地方整備局港湾空港部港湾計画課：若島宏治・川見健二  
電話：025-265-7781